

九条の会

新津・小須戸「九条の会」事務局
新津教育会館内
新潟市善道町2-9-44

Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692
http://www7a.biglobe.ne.jp
/~hiro-line/nk9jo/index.htm

国民投票法案の国会審議 異常な加速 与党暴走！ 悪法成立急ぐ

国会は異常事態で緊迫しています。二十六日からの安倍晋三首相の訪米に合わせ、政府・与党が改憲手続き法案など「軍事・強権国家」づくりとなる重要法案の相次ぐ成立を前提に、審議を加速させているからです。「『安倍カラー』を優先させた異例の法案だんご状態」(国会関係者)です。

九条改憲の条件づくりとなる改憲手続き法案について自民、公明両党は参院での「目標審議時間」とする四十時間を突破するため、参院憲法調査特別委員会の連日審議をこり押ししてきました。衆院で週一回の審議だったのと比べても異常なスピード審議で、このままのペースでは参院での「目標審議時間」としてきた四十時間を突破するため、採決強行の危険が高まっています。

憲法に直結する重要法案だけに、国民に審議内容が伝わり、議事録も精査して、十分かつ慎重な審議をつくすために、一定の間隔をおいて質疑を開催するのが当然です。最低投票率を求める声が八割を占めた世論調査に示されるように、まだ論点は尽くされていません。

NHK世論調査では法案の今国会での成立を求めているのは国民の8%しかありません。しかし与党は大型連休に入るまで連日、特別委で審議し、採決の条件を整える構えです。特別委のある自民党議員は「選挙民は(参院選対策のために地元に帰ってきてくれと)待っている。そのためにも早く成立させなければならぬ」とあからさまで。こうした与党の姿勢は、慎重審議を求める地方議会や、「今国会での成立」をのぞまない圧倒的多数の国民世論に逆行しています。

国会会期末は六月二十三日で、土日祝日を除き審議できるのは残り四十日間。七月に参院選を控え会期延長が難しいことも国民世論無視の“与党暴走”に拍車をかけています。

緊迫国会を前に、市民団体や労働組合は改憲手続き法案や教育三法案など悪法反対の国会行動や集会を計画しており、国会内外の改憲反対の行動がいよいよ重要になっています。

新津・小須戸全世帯に新聞折込みをしました

印刷・折込料金 12 万円かかりました。募金にご協力をお願いします！

4月24日に新津、25日には小須戸の全世帯に改憲手続法案反対のチラシを新聞折込みしました。ご覧になられたことと思います。事務局では、新聞折込の経費12万円の募金に取り組んでおり、すでに多くの方々に協力を頂いています。あと少しで目標に到達します。これからも募金にお伺いしますのでよろしくをお願いします。



5月3日(木)10時より 新津地区市民会館前で
成人式での宣伝活動を行います！

5月3日に新津地区の成人式が行われます。昨年同様に成人の皆さんに「**憲法9条大好き、戦争きらい**」の宣伝をします。多数のご参加をお願いします。時間は10時から1時間程度です。



昨年の宣伝活動

79%が「最低投票率」は必要

朝日新聞調査

朝日新聞社が14、15の両日実施した全国世論調査(電話)によると、憲法改正の手続きを定める国民投票法案について、「投票率が一定の水準を上回る必要がある」と考える人が79%に上った。法案の今国会での成立には「賛成」40%、「反対」37%と意見が分かれた。安倍内閣支持率は40%、不支持率は38%で、前回調査(3月31日と4月1日)の37%対43%から回復した。支持が不支持を上回るのは、1月以来3カ月ぶり。

13日に衆院を通過し、参院で審議が始まった国民投票法案には、改正のために必要な最低投票率などの規定は盛り込まれず、有効投票の過半数の賛成があれば、投票率の高低にかかわらず、憲法改正が成立する。質問では、こうした説明をした後、投票率が一定の水準を上回る必要があるかどうかを聞いたところ、「必要」が多数を占め、自民、公明支持層でもほぼ8割。民主支持層では9割近かった。

法案の今国会成立には20、30代でほぼ5割が「賛成」で多数だが、40代以上では反対がやや上回った。回答を保留した「その他・答えない」も全体の23%あった。

戦争のゲーム化に思う

星 真人(北上)

敵が次から次へと現れてくる。一人の男がライフルを撃つ。的確に相手は死んでいく。自分は一人で充分だ。絶対に疲れることはない。いつまでも撃ち続けられる。相手が何百人だろうが何万人だろうが、絶対に死ぬことはない。敵が一人もいなくなる。こうして自分は勝利をした。一瞬の勝利感が自分を恍惚にする。次の瞬間アア終わっちゃった。もう一度、ハイ、リセット。

もちろんこれはゲームの話、こうして命はどんどん軽くなっていく。この世界では仮想空間が意識上現実化し、命の軽さが脳裏に沈潜する。

いま、毎日のように爆弾で、あるいは銃撃で多くの罪のない人間が死んでいっている。しかし、爆弾がバチッとして甲高い轟音をたて、火炎が花火のように吹き上がる場面は毎日のように報道されても、毎日恐怖におびえ、逃げまどっている罪のない人々の姿や、どんどん殺されていく場面が画面にでることは滅多にない。メディアに映し出される戦争はまさにゲームなのだ。

こうして、戦争は内と外からゲーム化され、「超大量殺人」という戦争の本性が脳裏から次第に離れていく。戦後六十数年、戦争体験の風化が現実のものになりつつあるいま、日本は自衛軍と称する軍隊を作り、集団的自衛権と称して、外国とグルになって世界に人殺しに行こうとしている。戦争は「究極の殺人」であり、相手を殺すかも知れないと同時に自分だって標的にされるのだということを改めて強く肝に銘じたいと思う。この前の戦争はこのことを日本人に強く教えたのではなかったか。



つなぐ、つなぐ、この気持ち

ユーフォリア

堀川洲男(金沢)

最近、ユーフォリアという言葉を知った。経済学で使われるときは、「景気循環の繁栄局面の頂点で、資本の利潤が最高水準に達したとき陥る、夢幻境の局面...自分から抜け出すことができない...」と解説してある。なにやら難しそうだが、要するに大儲けに舞い上がって、我を忘れてしまった状態のことかと、ひとり合点した。

そういえば、これだけサービス残業がどうの、過労死がどうのと騒がれているのに、残業代を取り上げ、労働時間も無制限にするホワイトカラーエグゼンプションの導入だとか、偽装請負がバレたら「法律を変えて合法にせよ」と叫ぶ財界トップをみると、これがユーフォリアかと、怒りを通り越して笑いたくなる。

いやいや、財界に限らずユーフォリアが蔓延している。正当とは言い難い選挙制度と、何とかチルドレンなどというテレビの馬鹿騒ぎのおかげでかすめ取った議席を笠に着て、「世界の宝」といわれる憲法9条や教育基本法を、パロマや不二家の欠陥商品並に扱う政権党などその最たるものだ。「自ら抜け出すことができない」というなら、我々の手で抜けださせてやろうじゃないか。この夏にも!

24日から宣伝カーを走らせています

法案審議がいよいよ重大事態になってきました。宣伝カーを走らせることにしました。午前、午後、夕方それぞれ1.5~2時間くらいの目安で実施します。交代で運転しますのでご協力をお願いします。運転できる方は、事務局に連絡してください。